

第1日目 11月18日(土) 13:00~20:00 (役員会は10:30~)

時間	内容	会場
10:30~12:00	理事会・評議員会	A会場 (A7-101)
12:00~	大会受付開始	
12:10~12:55	ランチョンセミナー 「雑誌編集の裏側：査読者・編集者は何をしているのか？」 高倉耕一 (滋賀県立大学) 「編集者を困らせる論文」 吉田宗弘 (関西大学)	B会場 (A7-102)
13:00~13:50	ポスター発表コアタイム	P会場 交流センター・ホワイエ
<p>一般講演 ポスター発表 (展示は2日目の15時まで) ○：発表者、※：優秀講演発表賞対象者 P会場 交流センター・ホワイエ</p> <p>P-1 ○藪内弘昭・橋爪 崇・石原理恵・河島真由美・石井光代 (和歌山県工業技術センター 薬事産業部) 人工知能を用いた虫よけ植物スクリーニング手法の開発</p> <p>P-2 ※○松浦崇裕・都野展子 (金沢大学) アメリカシロヒトリ (鱗翅目) の個体数年次変動と環境要因の関係</p> <p>P-3 ※○高橋和太・都野展子 (金沢大学) 農法と農業害虫被害の関係ートップダウン vs ボトムアップ</p> <p>P-4 ※○岡田峻典¹・崔 翔気¹・大塚健斗²・難波広樹²・平林公男³ (1 信州大学繊維学部・2 信州大学大学院総合理工学研究科・3 信州大学学術研究院理工学域) 千曲川中流域内の異なる流程環境におけるカゲロウ類の二次生産力の比較</p> <p>P-5 ※○大塚健斗¹・岡田峻典²・崔翔 気²・難波広樹¹・平林公男³ (1 信州大学繊維学部・2 信州大学大学院総合理工学研究科・3 信州大学学術研究院理工学域) 洪水パターンの違いによるウスバガガンボ属 (<i>Antocha</i> spp.) の個体群変化</p> <p>P-6 ※○難波広樹¹・崔 翔気²・岡田峻典²・大塚健斗¹・平林公男³ (1 信州大学繊維学部・2 信州大学大学院総合理工学研究科・3 信州大学学術研究院理工学域) 千曲川中流域の常田・岩野両地点におけるトビケラ相の違い</p> <p>P-7 ※○森井清仁 (滋賀県大院・環境)・中野光議 (石川県大・生物資源)・中西康介 (国立環境研究所)・高倉耕一 (滋賀県大・環境) スジシマドジョウ 2 種の保全地における危機と順応的管理</p> <p>P-8 ※○鈴木あいり (酪農学園大 野生動物)・更科美帆 (酪農学園大 野生動物)・吉田剛司 (酪農学園大 野生動物) 北海道における指定外来種アズマヒキガエルの捕食による生態系影響</p> <p>P-9 ※○遠藤耕平・高倉耕一 (滋賀県大院・環境) ホトケノザは近縁種由来の物質を受容して閉鎖花を形成するー虫媒から自花授粉に切り換わる至近メカニズムー</p> <p>P-10 ※○瀬口翔太¹・松谷実璃²・澤島拓夫¹ (1 近大院・農・生態系管理, 2 近大・農・里山生態) 大阪港におけるサツマゴキブリの記録</p> <p>P-11 ○板倉修司・服部一哉・梅澤 究 (近大・農) イエシロアリとヤマトシロアリは同一遺伝子 Comm2, BobA, 825-Oak, FucTA, nub, HLHm3, Npc2d, ss, ara, caup, cas を異なる microRNA で制御する?</p> <p>P-12 山上繁政¹・藤井暢之¹・Sujiono²・西田隆義¹・沢田裕一¹・高倉耕一¹ (1 滋賀県立大学・環境, 2 BBPOPT) 複数の打ち切りデータをもとに卵巣内成熟卵数の増加パターンを推定する</p> <p>P-13 ※○寺澤祐貴 (滋賀県立大学大学院 環境科学研究科) トノサマガエル属 2 種の分布重複域における棲み分けの実態と繁殖干渉の影響</p> <p>P-14 ※○沖本拓也¹・大門 聖²・上田昇平¹・平井規央¹ (1 大阪府大院・生命, 2 河内長野市自然環境保護協議会) 和泉葛城山系におけるアリ種組成の標高間比較</p> <p>P-15 ○木村悟朗・谷川 力 (イカリ消毒(株)技術研究所) 可視光線に誘引されるトビケラ成虫</p>		

14:00~15:45 一般講演 ○:発表者、※:優秀講演発表賞対象者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします		
	A会場 (A7-101)	B会場 (A7-102)
14:00	A-1 ※○北野大輔 ¹ ・藤井暢之 ¹ ・Sujiono ² ・山上繁政 ¹ ・来田村輔 ³ ・本間淳 ¹ ・塚田森生 ³ ・西田隆義 ¹ ・沢田裕一 ¹ ・高倉耕一 ¹ (1:滋賀県大院・環境、2:BBPOPT、3:三重大院・生物資源) ミカンコミバエ種群2種における繁殖干渉—害虫の寄主利用を種間相互作用で説明する	B-1 ○田村悠記子・原田悠耶・小林洋子・引土知幸・川尻由美・中山幸治 (大日本除虫菊(株)中央研究所) トランスフルトリンエアゾールのヤブ蚊に対する有効性の検討
14:15	A-2 ※○久岡知輝 ¹ ・Sujiono ² ・沢田裕一 ¹ ・高倉耕一 ¹ ・西田隆義 ¹ (1 滋賀県立大学環境科学部、2 インドネシア農業省病害虫予防センター) インドネシア ジャワ島におけるミバエ類3種の季節消長~2012年から2016年のトラップ調査より~	B-2 ※○三石帆波・田村悠記子・引土知幸・川尻由美・中山幸治 (大日本除虫菊(株)中央研究所) ショウジョウバエおよびノミバエ誘引捕獲器の検討
14:30	A-3 ※○崔翔気 ¹ ・岡田峻典 ¹ ・難波広樹 ² ・大塚健斗 ² ・平林公男 ³ (1 信州大学大学院総合理工学研究科、2 信州大学繊維学部、3 信州大学学術研究院理工学域) エチゴシマトビケラの齢別組成の季節変化と二次生産力の推定	B-3 ※○内藤龍太 (アース製薬(株)研究部)・吉村 剛 (京都大学生存圏研究所)・野崎耕作・岩切 涼・日塔彬・松本 繁・久田祐士・並木雅俊・松尾安希・菅野夏基・住田一真 (アース製薬(株)研究部) 自然林におけるヤマトシロアリの生息密度、および、アース製薬(株)開発ベイト剤の効力について
14:45	A-4 ※○岸澤勇希 ¹ ・村濱史郎 ² ・平井規央 ¹ ・上田昇平 ¹ (1 大阪府大院・生命、2 日本バードレスキュー協会) 近畿地方南部におけるフクロウの遺伝的多様性解析	B-4 ※○坂田裕介、中嶋智子、片山哲郎、藤本恭史 (京都府保健環境研究所)、福浦祐介 (京都府中丹西保健所) アルゼンチンアリ <i>Linepithema humile</i> 残存地での補完的防除の実施について
15:00	A-5 脇坂 英弥 (巨椋野外鳥類研究会) ケリは一夫一妻か?	B-5 ○大橋和典、Yousif E. Himeidan、鷹野実、庄野美德 (住友化学(株)健康・農業関連事業研究所) SumiLarv® 2MR を用いたネッタイシマカ幼虫の防除
15:15	A-6 山崎一夫 (大阪健康安全基盤研究所) 虫えいによる昆虫擬態	B-6 ○安台梨乃・東 邦昭・藤川 匠・鈴木優八・小川具徳・野崎耕作・野村拓志・浅井一秀・内藤龍太 (アース製薬(株)研究部) 外来アリに対する市販殺虫剤の効果
15:30	A-7 ○今井健介、村上忠幸 (京都教育大学教育学部) ナミアゲハ幼虫の若齢期のエサ質が老令幼虫のパフォーマンスに及ぼす影響	B-7 ○大村和香子・神原広平 (森林総研)・沖濱宗彦 (樹木・病害虫防除コンサルタント) 樹木へのシロアリ被害の現状とその対策に関する試み
15:45	休 憩	
16:00~17:45	総会 (H会場 交流センター・ホール) 学会賞 受賞講演 奨励賞 受賞講演 優秀講演発表賞 表彰	
18:00~20:00	懇親会 ナシエリア (キャンパス内・生協カフェテリア)	

第2日目 11月19日(日) 9:30~16:00

9:30~11:45 一般講演 ○:発表者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします		
	A会場 (A7-101)	B会場 (A7-102)
9:30	A-8 井上望(大阪府立大学生命環境科学域)・山本直(奈良女子大学共生科学研究センター)・松岡悠・鈴木真裕・上田昇平・○平井規央(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科) 大阪府狭山池の水生動物群集とその多様性	B-8 ○辻英明(環境生物研究会)・菅野格郎(環境機軸) 屋内の小型トラップによるシバンムシの局所検出(2016年と2017年の比較)
9:45	A-9 ○中西康介(滋賀県大・環境/国立環境研究所)・大久保卓也(滋賀県大・環境) 水田における中干しが水生動物群集の動態にあたる影響	B-9 ○深谷 緑(日大生物資源)・桐山 哲(日大生物資源)・安居拓恵(中央農研)・辻井 直(中央農研)・中野昭雄(徳島農総技セ)・渡邊崇人(徳島農総技セ)・所 雅彦(森林総研)・Jocelyn G. MILLAR(UC Riverside) 移入害虫クビアカツヤカミキリの誘引性フェロモン成分の構造と機能
10:00	A-10 ○西中康明(関西大学 非常勤講師) 万博記念公園のチョウ類の群集構造と景観との関係	B-10 ○桐山 哲(日大・生物資源)・所 雅彦(森林総研・昆虫管理)・深谷 緑(日大・生物資源)・中山雄飛(日大・生物資源)・滝 久智(森林総研・昆虫生態)・加賀谷悦子(森林総研・昆虫生態)・岩田隆太郎(日大・生物資源) 外来種クビアカツヤカミキリ成虫に対する揮発性雄性・集合フェロモンと糖酢液を併用した複合誘引物の誘引性の検証
10:15	A-11 ○中村寛志(ミヤマシジミ研究会)・土田秀実(辰野いきものネット)・小野 章(辰野いきものネット)・加藤大輝(アメニス)・江田慧子(帝京科学大学) 長野県辰野町荒神山におけるミヤマシジミ個体群の保全について	B-11 ○山本優一、尾形信行(地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所)、石川陽介(農林水産省神戸植物防疫所大阪支所)、上原一彦(地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所) サクラ生立木に穿孔したカミキリムシ類等について
10:30	A-12 松本和馬 ムネアカハラビロカマキリの古い定着地近隣での生息状況	B-12 ○清水伸泰、渡邊綺咲(京都学園大学バイオ環境学部) 外来種アワダチソウグンバイにおける性フェロモンの機能およびフェロモン量の経時的変化
10:45 ~ 11:00	休憩	
11:00	A-13 長田庸平(大阪市立自然史博物館) 貯蔵食品害虫コクガ(チョウ目ヒロゾコガ科)とその近縁種の同定手法の開発	B-13 ○藤本恭史、中嶋智子(京都府保健環境研究所) BGセンチネルTM2トラップの蚊類捕獲特性
11:15	A-14 古川真莉子 ¹ ・沢田裕一 ¹ ・高倉耕一 ¹ ・中西康介 ² ・○西田隆義 ¹ (1 滋賀県大・環境科学部, 2 国立環境研究所) 侵略的外来種ヒロヘリアオイラガはなぜ減ってしまったのかー外来種衰退メカニズムの実証①	B-14 中嶋智子(京都府保健環境研究所) 水盤トラップによるアリ類調査
11:30	A-15 ○古川真莉子 ¹ ・沢田裕一 ¹ ・高倉耕一 ¹ ・中西康介 ² ・西田隆義 ¹ (1 滋賀県大・環境科学部, 2 国立環境研究所) 侵略的外来種ヒロヘリアオイラガはなぜ減ってしまったのかー外来種衰退メカニズムの実証②	B-15 ○上田昇平(大阪府大院)・乾 陽子(大阪教育大) 特定外来生物ヒアリの生態と日本への侵入:大阪府での調査状況
11:45~13:00 昼食		
13:00~16:00 市民公開シンポジウム(交流センターホール H会場)		

「湖国滋賀で展開される有害生物管理のいま」

開催趣旨

日本最大の湖である琵琶湖に象徴されるように、滋賀県は豊かな自然環境を有することで知られています。その一方で、農作物の害虫、里山の害獣・害鳥、最近では多様な外来生物に悩まされてきた土地でもあります。本公開セミナーでは、滋賀県において有害生物の管理や研究に取り組んでいる方々に、これまでの取り組みの経緯を含め、近年の状況、最新の取り組みや研究についてお話いただきます。有害生物をめぐる取り組みという少し変わった視点から、滋賀県の自然についてより深く知る機会になれば幸いです。

- ・ 滋賀県彦根市の水田地帯におけるカヤネズミの食性ーカヤネズミはイネを食害するか？
畠 佐代子（全国カヤネズミ・ネットワーク）
- ・ 滋賀県における害虫管理技術の研究
○塚本 敬之・江波 義成（滋賀県農業技術振興センター）
- ・ 特定外来生物オオバナミズキンバイの生活史特性から繁茂の理由をさぐる
○稗田真也¹・金子有子²・中川昌人³・野間直彦¹
(1. 滋賀県立大学, 2. 東洋大学, 3. 岡山県農林水産総合センター)
- ・ 琵琶湖の漁港で産卵するオオクチバスの釣りによる駆除
山本 充孝（滋賀県水産試験場）
- ・ 科学的・計画的捕獲によるカワウ管理
須藤 明子（(株)イーグレット・オフィス）
- ・ 滋賀県の獣害
田崎駿平（滋賀県立大学）